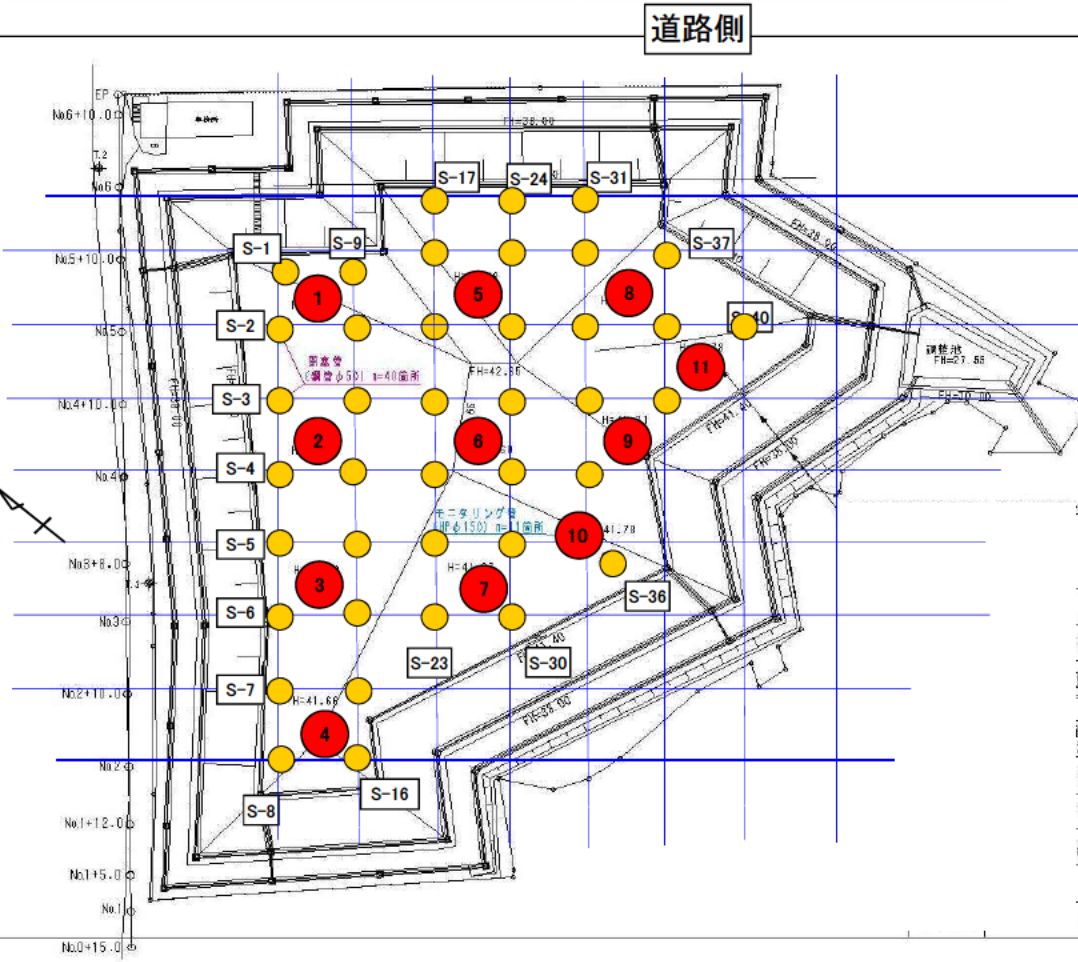


# 鈴鹿市稲生事案における産業廃棄物層内の温度及び一酸化炭素濃度の状況

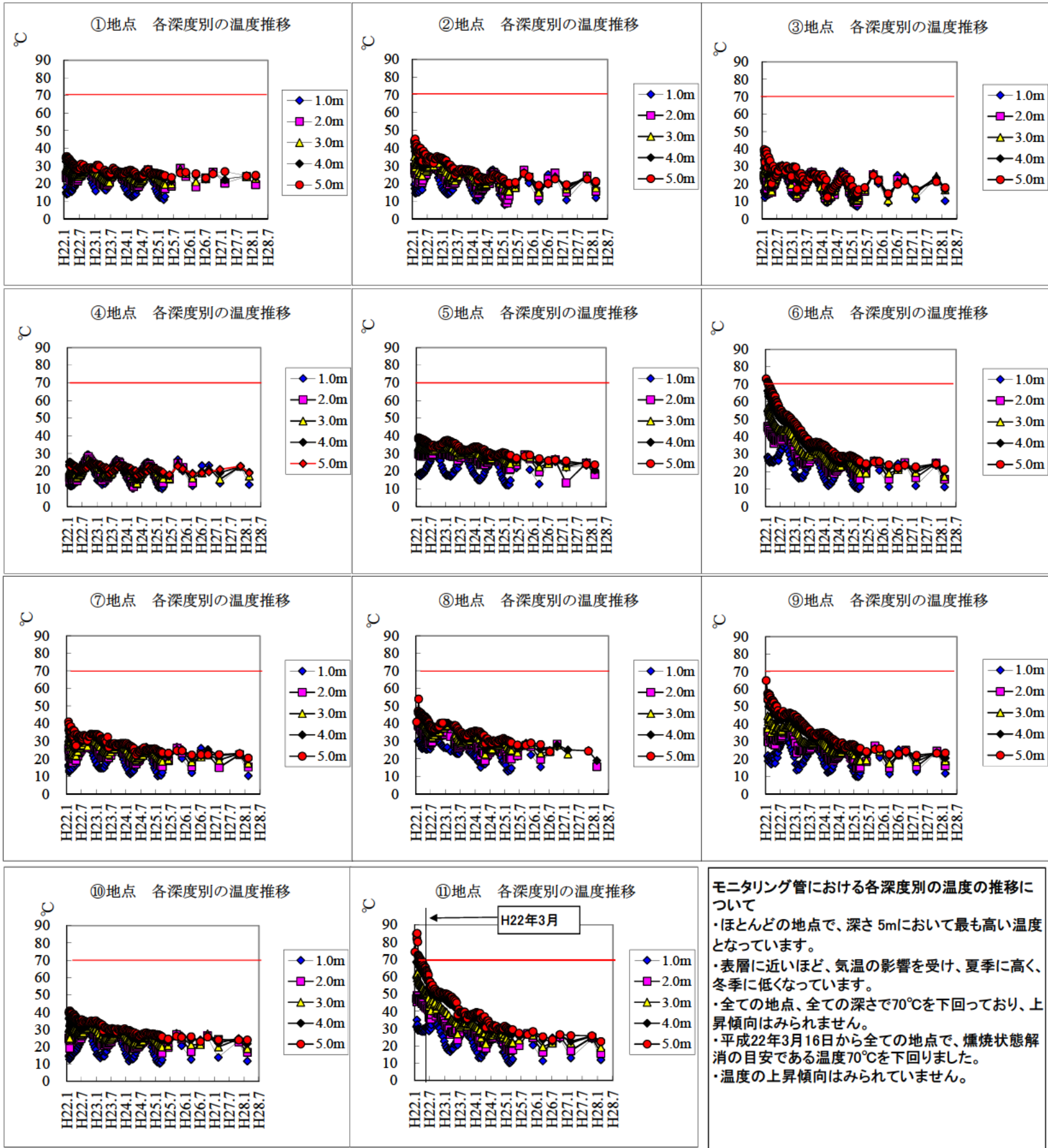
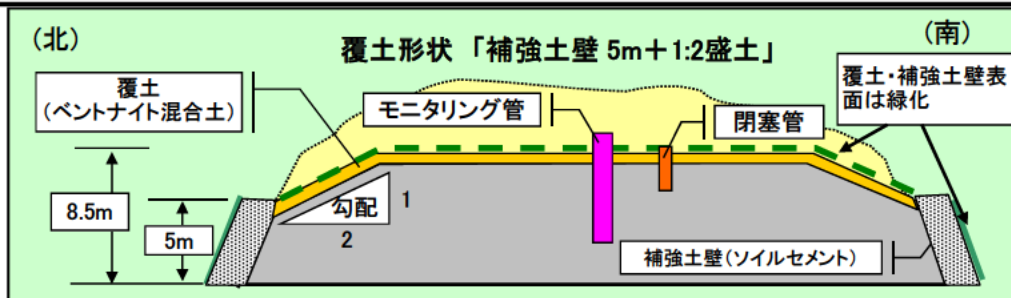
図1 産業廃棄物の温度及び一酸化炭素の調査地点

図2 モニタリング管(深さ1~5m)の温度の状況

- 凡例**
- モニタリング管**
    - 深さ5m(1m毎に温度計設置)
    - 11箇所
    - 多孔管
    - 測定項目: 温度、一酸化炭素
  - 閉塞管**
    - 深さ1m
    - 40箇所
    - 測定項目: 表層温度



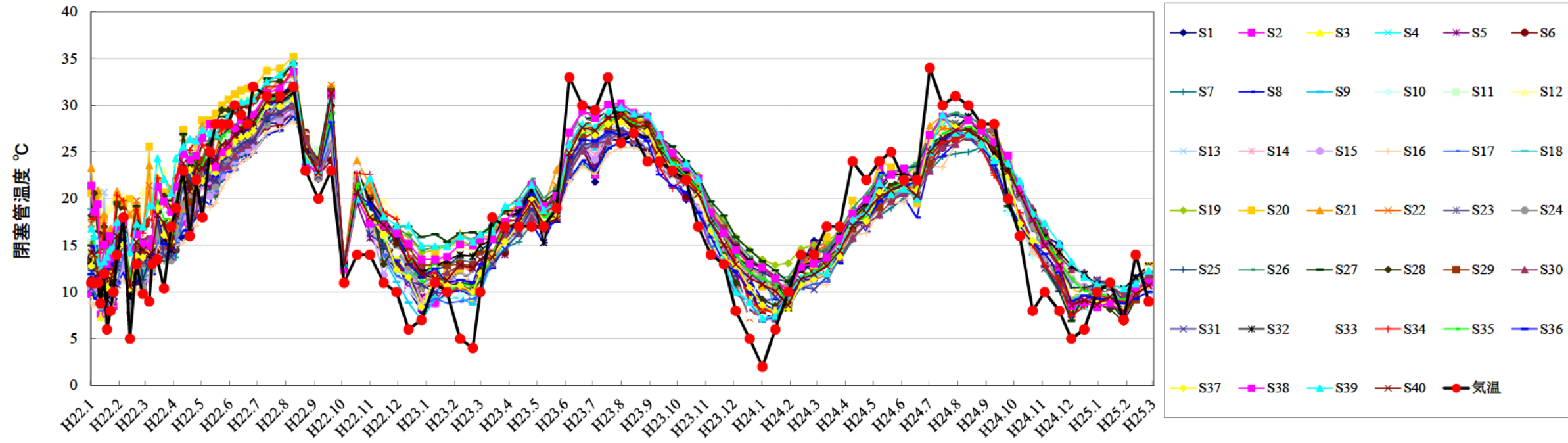
- 5mモニタリング管**  
深さ5mの管で、1m毎に温度センサーを設置し、各深度毎の温度を測定。  
また、複数の穴が開いており、廃棄物内部のガスに含まれる一酸化炭素濃度を測定。
- 閉塞管**  
深さ1mの管で、温度計を入れて表層1mの温度を測定。



モニタリング管における各深度別の温度の推移について

- ほとんどの地点で、深さ5mにおいて最も高い温度となっています。
- 表層に近いほど、気温の影響を受け、夏季に高く、冬季に低くなっています。
- 全ての地点、全ての深さで70°Cを下回っており、上昇傾向はみられません。
- 平成22年3月16日から全ての地点で、焼却状態解消の目安である温度70°Cを下回りました。
- 温度の上昇傾向はみられていません。

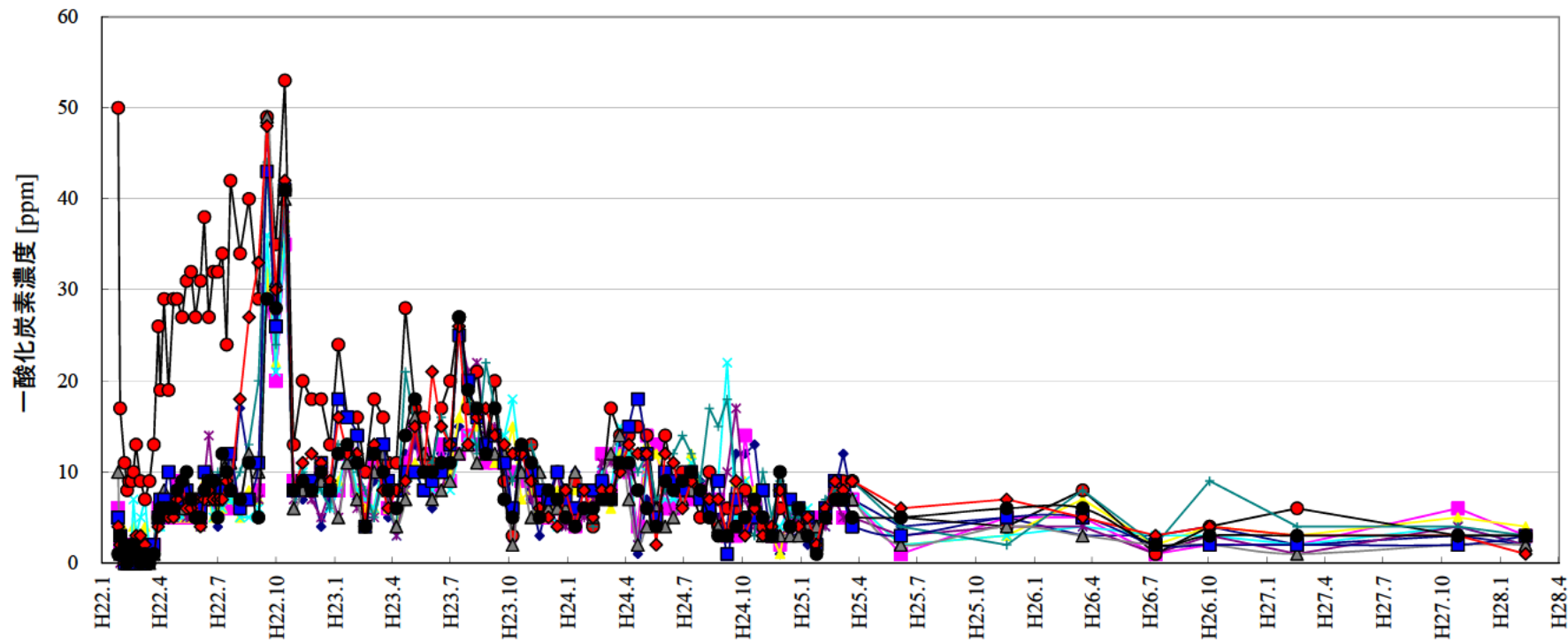
図3 閉塞管(表層1m)の温度の推移、及び、気温との関係



閉塞管(表層1m)の温度の推移、及び気温との関係について

- ・表層1mの温度は、気温の変化と同じように変動しています。
- ・全ての地点で当初から70°Cを下回っています。

図4 モニタリング管(深さ1~5m)の一酸化炭素の状況



モニタリング管における一酸化炭素濃度の推移について

- ・全ての地点で当初から100ppmを下回っています。